



平和とくらしを守る北州市民の会

〒 803-0817 小倉北区田町 13-21 田町ビル 3 F
TEL 093-592-5000 FAX 093-571-4346

北州市民の会

検索



WEB : <http://siminnokai.com>
e-mail : koe@siminnokai.com

区域区分見直し問題 市民54人参加で、市への意見次々

北州市民の会は7月17日、戸畠生涯学習センターで、「区域区分の見直し」(市街化区域から市街化調整区域に見直すこと)をテーマに第14回の市民講座を開催、市民54人が参加するなど関心の高さを示しました。「区域区分の見直し」とは、斜面地の市街化区域を市街化調整区域に見直すというので、住宅地としての開発を規制し、概ね30年後を目途に、その地域を無居住化するというもの、市内1万8000世帯が対象となっています。



第一部では、建築都市局の担当係長から市の区域区分の見直し計画の説明が行われ質疑が交わされました。参加者から、八幡東区での住民説明と今日の説明で変わっていることを質すと、斜面地を30年かけて無居住化することを「市が行う」との誤解があるので、「すすめます」との表現に変えたと答弁。また、私有財産への侵害ではないか等の意見が次々に出されました。

第二部では、福岡県自治体問題研究所の宮崎研究員が講演。宮崎氏は、北州市の住宅政策を丁寧に説明したあと、市の区域区分の見直しは必要なのか、他に手段はないのかとして、都市計画の手続き上、関係住民が賛成しなければ実施しないことを前提に、市の施策に対する代替案などを検討材料として示しました。

参加者からは、何もわからないで参加したが、市と参加者の質疑を聞き、講演が進むなかで、全体像がつかめたように感じるなど感想も寄せられています。

まとめ三輪事務局長は、各区や町内単位での出前講演や学習会を取り組み、それぞれの区の動きなどの情報交換や問題点を共有する場を市民の会としても検討することを述べて閉会としました。

登下校時の通学路の安全対策申し入れ 新婦人7支部が建設局と懇談

7月8日(木)、新婦人7支部が登下校時の通学路の安全対策について市に申し入れました。教育委員会へは申し入れ書を手渡し、建設局とは懇談しました。先月28日、千葉県八街市で下校途中の小学生の列にトラックが突っ込み2人が死亡、3人が重傷を負った事故。南区にも危険な通学路は多くあります。志井小学校への通学路はとても狭く(70cm~80cm)ガードレールもありません。地域からの度々の申し入れにもかかわらず20年以上今の状態です。副会長で市会議員の藤沢さんに設定してもらい、7支部にもよびかけ、懇談となりました。建設局としては「状態はつかんでいるが用地買収がなかなか進展はしている」との事。分かりますが事故が起きてからでは間に合いません。早急に何らかの手を打つように話しました。市会議員の藤沢さん、永井さん、高橋さん、市議選に立候補した宇土さん、県議・高瀬さんも同席。★参加した支部長・植山渚さんのコメント「市内には危険を把握している所だけでも1200カ所もあり、それらに対しての予算は10億円。ほぼ道路拡幅の用地買収に消えてしまうとか。税金はどこに使うのか真剣に考えてほしいものです」。

(新婦人こくら南ニュースより)



小倉駅デッキでスタンディング 北九州母親大会実行委員会

7月11日、11時~12時、北九州母親大会実行委員会が小倉駅デッキでスタンディングでアピールしました。北九州母親大会は、コロナ禍で2年連続中止を余儀なくされました。「記念講演講師の元山仁士郎さんのビデオ鑑賞会をしようか」などの案もありましたが中止と決定。でもそこは元気いっぱいの実行委員会! 外向けのアピールをすることになり、11日決行! 前日の予報は雨でしたが当日はすっかり夏空。各地域各団体で項目を振り分けマイクを握って訴えま



した。小倉地区は「沖縄問題」辺野古基地建設に遺骨が眠る土砂を投入すると言う許すことができない暴挙に対しての抗議文です。読み上げたのは小倉地区実行委員長の大東さん。やまいも南班の会員さんです。横断幕は土曜日作成。プラカードも持参しました。デッキの人出は緊急事態宣言前くらいの人出。チラシも200枚配りました。(新婦人こくら南ニュースより)

9区・10区に野党統一候補を!



9区予定候補者 まじまさん

今日は19日行動の日。「平和をあきらめない北九州ネット」が毎月小倉駅前で行っている行動を、初めて福岡9区の黒崎駅前、10区の小倉駅前で同時刻開催。

歴史的な日となりました。9区から立候補予定の日本共産党の私と無所属の緒方林太郎氏が初めて9区内で肩を並べて「野党共闘 政権交代」を市民のみなさんといっしょに訴えたのです。私は「福岡9区の市民と野党の共闘では歴史的な日となりました。候補者の一本化など難しい問題はありますが、緒方林太郎さんとの協力、共同はこれからも発展させていきたい。今日この場から福岡9区における新しいたたかいを始めていこうではありませんか」と訴えました。18時から始めた集会は、帰宅途中の方々から注目され、「緒方さんとまじまさんが並んでいるなんて珍しい」とスマホで写真を撮る人も。

しかし、9区内の立憲野党的地方議員で参加したのは日本共産党と無所属の市議のみ。まだ前途多難ですが、ここからが始まりです。何しろ新日鉄、安川電機、三菱など、大企業城下町と言わされてきた八幡、戸畠、若松の福岡9区。かつての反共労使一体労組の力が全国屈指の強さを持ち、強力な日本共産党排除の壁があった街でもこうした変化が起きています。そのことを確信に、ここでの共闘の発展はもちろん、来る総選挙で必ず国会に戻る決意を新たにしました。

(真島さんFBより)

9区予定候補者 緒方さん

今日の夕刻は黒崎駅前での「平和をあきらめないネット北九州」の皆さんによる街頭演説会にお呼ばれをしまして、マイクを握らせていただきました。話した内容は以下のようでした。

日本国憲法の三原則である国民主権、平和主義、基本的人権の尊重は今後とも堅持しなくてはならない。平和である事に理屈は要らない。かけがえの無い価値である。政治と国民の間を繋ぐのは正しい情報提供。嘘、隠蔽はあってはならない事。民主主義の根幹が成り立たなくなる。

親の年収、家庭環境によって子どもが掴めるチャンスが左右される世の中にはならない。私が東大に入った時、親の年収は平均の半分以下。いつも「負けてたまるか」と思っていた。だからこそ、この件は頑張りたい。

地球温暖化については、脱炭素化のための再生可能エネルギー推進は大切。ただ、森林を破壊しながらソーラーパネル設置をやっている現状を憂慮。今の制度はバランスが悪いので国会で取り組みたい。

中国の尖閣諸島に対する主張は全く受け容れられない。香港の民主化潰し、新疆ウイグル自治区での人権侵害も受け容れられない。人権は人類共通の価値。日本はもっともっと中国に対して声を上げるべき。

街頭演説が終わりまして、そのまま黒崎の「Bar bar's BAR」さんで飲んでます(笑)。この画像とは異なり、完全にリラックスモードです。

(緒方さんFBより)

10区は小倉駅前でアピール

7月19日（月）、「平和をあきらめない北九州ネット」は、衆議院9区・10区における野党統一候補の擁立のために、市民と野党の共同を呼びかける定例19日行動を行いました。9区は黒崎駅で、10区は小倉駅でそれぞれの取り組みと市民へのアピールをしました。

小倉10区では、立憲民主党の城井衆議院議員は所用で参加できませんでしたが、森本由美北九州市議が参加、日本共産党は田村貴昭衆議院議員が参加、社民党は11区の予定候補が参加し、各党が市民と野党の共闘で菅政権を倒す共同行動を訴えました。荒牧弁護士と健和会看護師も野党統一候補を市民の力で決めようと訴えました。参加者は、暑さ厳しいコロナ禍の下、70人を超え、署名とビラ配りで共同しました。「平和をあきらめない北九州ネット」は、8月19日（木）も、小倉・黒崎駅で定例19日行動を提起しています。次回実行委員会は、8月12日（木）17:00 生涯学習総合センターです。以下に、黒崎駅での19日行動に参加された、まじま・緒方候補を紹介します。



広島 手帳全員交付 一刻も早く

広島は6日、米国による原爆投下の惨禍から76年を迎えます。広島市中区の平和公園では市主催の平和記念式典が開かれ、原爆投下時刻の午前8時15分に原爆死没者を追悼し、黙とうします。新型コロナウイルスの影響で参加者を大きく縮小しての開催は2年連続です。

人類史上初めて核兵器を違法化し、核兵器の非人道性を明記した核兵器禁止条約が今年1月、発効しました。現在55カ国が批准しています。世界の流れは間違いなく核兵器廃絶と核被害者の救済を支持しています。

広島への原爆投下直後に降った放射性物質を含む「黒い雨」をめぐる訴訟で、広島高裁は、広島地裁判決を維持・強化した内容で、歴代政府の被爆者行政に根本的な見直しを迫る画期的な判決を出しました。

菅首相は、上告を断念し原告に被爆者健康手帳の交付と、原告と「同じような事情にあった方々についても、救済を検討する」との談話を発表しました。一刻も早く、全ての被爆者の救済を進めるべきです。広島で被爆し、この1年に死亡が確認された原爆死没者は4800人で、合わせて32万8929人となりました。

長崎 「被爆体験者」にも手帳交付を

長崎は9日、米国による原爆投下の惨禍から76年を迎えます。

長崎市松山町の平和公園では、市主催の平和式典が行われます。原爆が投下された午前11時2分、鐘の音に合わせ黙とうし、犠牲者を追悼します。新型コロナウイルス感染拡大の収束が見通せない中、昨年に続き縮小しての開催です。

今年1月、核兵器禁止条約が発効。被爆者と市民は「核兵器の終わりが始まった」と喜びの声を上げ、日本政府に対し、条約参加にかじを切るよう強く求めています。

広島高裁での「黒い雨訴訟」で国が上告を断念し、原告全員に被爆者健康手帳が交付されたことは、国の定めた被爆地域の外にいたために被爆者と認められていない長崎の「被爆体験者」を大いに勇気づけました。中村法道知事と田上富久市長は国に対し、長崎でも被爆者の認定対象を拡大するよう厚生労働省に要望。90歳を超える「被爆体験者」もいる中で、一刻も早い被爆者健康手帳の交付と被爆地域の拡大が求められています。

この1年で新たに亡くなった長崎の被爆者は3202人。原爆死没者は合わせて18万9363人となりました。

衆院福岡9区 「市民と予定候補者との意見交換会」 平和ネットが予定候補者を招き開催

8月7日13:30～15:30、平和をあきらめない北九州ネット主催の衆院福岡9区「市民と予定候補者との意見交換会」が行われました。新型コロナの感染拡大を受けて、急きょオンライン開催となりました。福岡9区は北九州市の西半分、若松区・戸畠区・八幡東区・八幡西区が範囲です。立候補を予定している日本共産党のまじま省三さんと無所属のおがた林太郎さんが参加しました。Zoomだけでなく、平和ネットFBからもLIVE配信されました。再生回数が200回を超える反響がありました。候補者の人柄もわかり、信頼が深まって大変良かったというのが、大方の感想でした。



平和ネット定例会議で今後の活動を検討

8月12日、17:00～18:30 平和ネット定例会議が急きょオンラインで開かれました。主な議題は、上記意見交換会の感想と総括、19日定例行動の具体化です。19日行動については、小倉・黒崎駅の2か所での集会（7月19日）を引き継ぐことで合意しました。市民と野党の共闘を広く市民にアピールするうえでの工夫と問題点が出されました。次回定例会議は、8月31日（火）18:00 Zoom（第1法律事務所ハイブリッド方式）会議です。

9条の会・北九州憲法ネット第18回総会・記念講演会

「半クーデター政権」崩壊と 統一戦線の行方

2021年 9月18日(土)13時開会

市立生涯学習総合センター3階ホール

記念講演 石川捷治氏
(九州大学名誉教授)



講師プロフィル

政治史研究者、九州大学名誉教授。1973年～1978年北九州大学(現・北九州市立大学)法學部にて西洋政治史担当。1978年～2008年九州大学法學部にて政治史(20世紀政治史)・地域研究(東アジア・九州・沖縄)・平和学の研究・教育を担当。九州大学大学院法學研究院教授、法學部長(1998～2000年)、韓国研究センター長(2000～2006年)等歴任。2008年～2020年久留米大学法學部教授、同大学附属図書館長・客員教授等を歴任

(講演は13時30分頃から予定)

資料代500円

講演への思い

私たちは深刻化するコロナ禍のなかで、鎮魂と不戦の誓いの76年目の「終戦記念日」を迎えました。しかし菅政権は「戦争できる国」への「半クーデター」的強制転化をまだ諦めていません。諦めるどころか「最後」のカケに出ています。他方、「あの時代」にもどせない勢力の「統一戦線」はようやくスイッチが入りました。「大分歧点」にさしかかっている今、私たちは何ができるのかを考えみたいと思います。